

2025
11

真宗大谷派京都教区 教化広報誌

教区だより

第5回連載

「女性教化」の近・現代史を紐解く

—真宗大谷派の場合—

大谷大学文学部歴史学科教授 福島 栄寿 氏

レポート

児童大会

レポート

靖国問題学習会

特集

本の紹介コーナー

今、この時に、親鸞聖人に会う

近江 第26組 比叡谷 真 氏

「女性教化」の近・現代史を紐解く

—真宗大谷派の場合—

大谷大学文学部歴史学科教授

福島 栄寿



第5回

「仏教主義婦人雑誌」『家庭』を読む（その二）

「家庭」にみる男女同権論

今回から、数回にわたり、浩々洞洞人誌『精神界』のいわば姉妹誌であった「仏教主義婦人雑誌」『家庭』の論説を取り上げ、明治時代に真宗大谷派の教学者たちが説いた女性教化の教説の特徴を紹介します。

『家庭』巻頭には、毎号、編集者が読者に向けて説論したい内容が掲載される「主義」という欄があります。同誌第一二二号（一九〇一〈明治三四〉年二月発行）の同欄に、「吾人の男女同権論」と題する論説が掲載されました。そこに同誌の男女同権についての考え方の特徴が読み取れます。まずは、その主張内容の概要を紹介します。

「吾人の男女同権論」の主張

「主義」欄の筆者は、次のように述べます。「西洋文明が日本に伝わりとともに、西洋諸国の思想の影響で、日本でも女権の拡張が主張されるようになり、男女同権を公衆の面前で演説する女性さえ出現した。しかし男女同権などを口にする女子が、時として生意気なのは、男女同権の本当の意味を知らないからではないか」（筆者意訳）と。そして、「女子は男子に決して頼ら

ず、女子として世の中で自立すべきだ。男子ができて女子ができないことがあるのか。政治家、学者、実業家にもなるべきだと主張し、積もった不満を晴らすように男子にとって代わろうとする女子もいる」（同前）と、男女同権論を主張する女性たちについて言及します。

ここで筆者は、「私たちは、あながちにこうした意見を否定はしません。ただ、私たちの見方から男女同権について発言させて欲しい」（同前）と続けます。「主義」欄の筆者は、世間で流行する男女同権論を、一応は認めている様子です。言葉遣いは謙虚ですが、果たして筆者の本音は、どうでしょうか。先取りすれば、その主張の重点は、男子に対する女子の「服従」を説くことにあったと言わざるをえません。

筆者は、次のように強調します。「男女を問わず、私たちは服従を美德だと信じます。そもそも服従しなければ、私たちは一日も生存できません。広い意味で、世の一切のものに服従しているのです」（同前）と。要するに、仏教の縁起の教えを念頭に、説明しているようです。この点に限れば、仏教一般の教えを説いているように読めます。

しかし、筆者は、本音を主張します。「男女同権を認めるならば、服従の美德を認めなくてはなりません

ん。そうであればこそ、初めて温良恭謙で、氣力のある婦人になれるのです。（中略）だから、女子は、男子への服従を決して嫌がり避けるべきものではありません」（同前）と。結局のところ筆者は、女性読者に対して、男子への「服従」を説くのでした。

でも、どうでしょうか。果たして、この時代の女性読者たちにとって、「服従」を美德として心がけなさいと説かれても、男尊女卑が当たり前の社会のなかで、父親が決定権を持つ家父長制的な価値観に、ただ「服従」して生きる以外に、他の生き方を想像することができたでしょうか。現実には、女性が一方的に男性に「服従」する生き方を追認すべきことを教え諭す内容だったと言わざるをえません。次回、この論説の特徴を、「精神主義」の思想と比較して考えてみたいと思います。（続く）



特集 本の紹介コーナー



出版部会 近江第26組 徳乗寺 比叡谷 真



『citrus*』

(作者：サブロウタ 出版社：一迅社)

*いわゆる「百合・ガールズラブ」にカテゴライズされる漫画で、一部アニメ化もされています。

『citrus (シトラス)』読後感

二人の少女が主人公で、見た目ギャルで恋愛に対して表向き百戦錬磨を装いながら、一度も恋をしたことがない女子高生である、藍原(旧姓小此木)柚子は、母親の再婚にともない、お嬢様学校として名高い女子高に転校し、そこで生徒会長の藍原芽衣に出会います。互いに第一印象最悪の二人でしたが、実は芽衣の父親が柚子の母親の再婚相手であり、突然義理の姉妹として、一つ屋根の下、同じ部屋での生活が始まります。見た目も性格も異なる二人は反発しながらも次第にひかれあつて……と、前回『教区だより』二〇二五年八月一日発行第

四二三号)の文章をまねて書き出してみたところ、近々五十歳になることを思い出して気恥ずかしくなり、読後感をもつて紹介にかえようと考えなおしました。

数年前、性的少数者について「隣に住んでいたら嫌。見るのも嫌だ」と発言して更迭された政府要人(数カ月後要職に復帰)がいたと記憶しますが、自身、本当に恥ずかしいことですが、同じような感性で生きてきたのではないかと思います。自分が正しい、私の感覚が正当たと、自らを疑うこと、省みるこのない生き方です。

そのように、いわれなき偏見を握りしめ振りまわすことで自己を保とうとしている私のありかたこそが、南無阿

弥陀仏から問われているのだとご法話などで教えていただくのですが、生きるうえにおいて、生活のなかで、お念仏から私が問いかねられるとは具体的にどういうことなのか、もうひとつピンとこないと思っていました。

『citrus』という漫画に出あって、通読し何度か読みかえすうちに、同性愛についての偏見に固執する私が破られたと気づきました。お聖教の言葉に直接教ええられるということもあるのですが、それ以外の言葉や出来事、あるいは人の生き様などをおして、真実を教えられることもがあると実感します。

表向き恋愛をテーマにした歌にも、それにとどまらないメッセージが込められることもあると聞いたことがあります。が、同様に『citrus』も、少女二人の関係が「尊い」と喜ばれるだけの単なる恋愛漫画というだけでなく、私のありさまを問いかける「物語」なのだと思います。以前、物語とは、一度利用するだけの「情報」とは異なり、たずね続けることができる言説であると教えていただきましたが、裏をかえせば、私が問われつづけるということでもあります。また、そう考えると、物語というも

のに苦手意識を持つている私にも、法蔵菩薩の物語である『正信偈』の前半(依経段)が、これまでとは違って感じられる気がします。

最初にガールズラブ(GL)作品と書きましたが、過激な性的描写はありません(対象年齢十五歳以上)ので、『教区だより』の主な読者の皆さんには安心して読んでいただけるものと、ご一読をおすすめします。



児童大会

みんなでつくりあげた児童大会

青少幼年部会 近江第2組 善念寺 ぜんねんじ 治田 はるた 義章 ぎしやう



八月十九日（火）・二十日（水）の二日間、滋賀県高島市・ビラデスト今津を会場に第64回京都教区児童大会が開催され、児童24名と青少幼年部会員、事務局、今回のために集まってくださったスタッフの計23名が、大自然の中で様々な活動を行いました。

「児童大会」は長い歴史があり、教区の青少幼年教化にとって非常に大切な行事ですが、この数年新型コロナウイルス感染症の流行により中止や規模の縮小を余儀なくされてきました。今回久しぶりに宿泊を伴う児童大会を開催するにあたり、経験のあるスタッフが少ないことや、参加者が集まるのかなど、多くの不安がありました。実際、日程中に小さなトラブルや失敗などはありませんが、皆が無事元気に帰ってくることで、きスタッフ一同ほっとしています。今回このような規模の児童大会を無事開催できたのは、忙しい中参加してくださった

大学生や若手寺族のスタッフの皆さんの尽力がとても大きいものでした。皆さんは主に班担として子どもたちと一番近い場所で、緊張

している子どもたちにもやさしく話しかけ、楽しい雰囲気を作り、いろいろな活動を一緒にしてくださいました。最初は恥ずかしがっていた子どもたちも、徐々に仲良くなり、最後は心から別れを惜しんでいました。児童、部会員、事務局、スタッフすべての参加者が立場を超え、大会テーマのごとく「であい、つながり、ひびきあう」ことのできた児童大会であったと思います。



朝の法話

人間（ジンカン）を生きる

児童大会スタッフ 長浜第15組 覺應寺 かくおうじ 河崎 かわさき 顕祐 けんゆう



児童大会に参加して、まず感じたのは子どもたちのパワーでした。人が寄り集まるということ、その力です。キャンプ中は活気に満ち、特に私の班では、仲間と協力してカレー作りに取り組む姿に感動しました。知らない子どもも多く、一泊二日しか時間

ありません。それなのに、それぞれにできることをして、他人を気づかうことが

できる姿を見せられたことが特に印象的でした。子どもたちが目を輝かせて外を走り回ったり、お念珠づくりに挑戦したり、恥ずかしがりながら

らも人前で感話をしてくれたり、しっかりとお勤めをする姿は何にも代え難いものがありました。

一方、反省点もあります。こちらのスケジュール管理が一部不十分でした。

場所が分からず右往左往する場面がありました。私においては特にそうで、施設の位置関係をもっとしっかりと把握しておくべきでした。また、少ない時間をより有効に活用することもできたのではと思いました。班でもっとたくさん遊べたのではないかと思います。体力をつけなければと思いました。緊張をほぐして知らない子どもたちと打ち解けるサポートをもっとしてあげられたのではと反省しています。

全体として、子どもたちのパワーと笑顔に触れ、企画側としても学びの多い大会でした。反省を活かし、次回はよりスムーズで全員が楽しめる児童大会を目指したいです。



今、この時に、

親鸞聖人に遇う



高島秋講随聞記

出版部会 近江第26組 徳乗寺

比叡谷 真



で運営にご尽力いただくお姿が印象的だった。仕事のため、お参りできなかったお座もあったが、聴聞して感じたところを記したい。

期間中、毎年乗如上人の追恩法要がお勤まりになり、『御消息』が拝読される。拝読者である宮戸弘教務所長の仏法相続をテーマとした挨拶を受けて、海師が、安田理深先生の「やらなければならぬ」と思

うならやめなさい。やっ

ていきたいと思

うならやりなさい」という言葉を

紹介してくださった。そして、海師は、

お寺に関わる者自身に仏様の教えを

聞いていきたいという姿勢がなければ、親鸞聖人のお寺で

なくなってしまう。それでは、真宗の寺院としてはすでに死んでいるのではないかと語りかけられた。

二年後に徳乗寺が会所を務める予定であり、すでに出講の内諾もいただき、お寺として準備を始めてはいる。だが、その先の相続ということを考えると、今後、秋講のかたちを変えざるを

えないとひしひしと感じる。住職同士で話していても、秋講変革の話題になることが多いが、話をあわせているうち、ややもすれば、暑いので時季を変えたいとか、日程が長いので短くしたいといった内容に終始してしまい、もやもやすることの繰り返しだ。

宮戸所長や海師、また安田先生の言葉は、そんな私に対する問いかけとして深く心に刺さった。

以前、もう亡くなられた先輩住職が、お寺で会所を受ける日数を短くし、残る部分は公共施設を使用したいと申し出られたことがあり、

激しい反発を覚え

たことを思い出す。伝道研修会の法話

実習で、そのことを話したこともあった。怒りの感情を振りまわしたこと自体を後悔してはいないが、はたして、何に基

づいて憤っていたのか。自分が大切にしたいと思うことを貶されたからだろう

が、その大切にしたいことの中身は、念仏相続ひとつといえるか。

法話の冒頭、海師は、「学場は宗門の

いのちであり、私が問われる場である」とたしかめられた。学場の伝統を受け伝えようとあがくなかに、南無阿弥陀仏のなかに、私自身の姿勢を問われ続けていくしかない。

秋講は僧侶の学場であるとともに、近代以降、門徒僧侶の聞法の間として、

具体的には永代経法要を基調として相続されてきたと聞いているが、秋講全体が法要式であるわけではない。つまり、『真宗大谷派儀式軌範』（東本願寺出版）に答えが載っていないからこそ、誰

のための秋講なのか、何を中心とするのか、当事者である私たちが、丁寧に考え、議論して、改革していく必要があると感じた。

八月二二日から二五日にかけて、近江第二六組妙琳寺（滋賀県高島市勝野）にて、湖西学場「高島秋講（以下「秋講」）が開筵された。午前の講義は三木彰円師（大谷大学）、午後及び夜（二二日は無し）の法話は、二二日まで林 拡師（小松大聖寺教区）、二三日から海法師（東京教区）がそれぞれ担当され、各お座とも、先生方は熱を込めてお話しくださった。また、木嶋孝慈住職はじめ、寺族門徒の皆さんが朝から晩ま

八月二十一日（木）～二十五日（月）
乗如上人追恩法要 二十三日（土） 午後一時半から

高島秋講

講義 八月二十一日～二十五日 三木彰円師（大谷大学教授）
法話 八月二十一日～二十二日 林 拡師（小松教区 普賢寺住職）
八月二十三日～二十五日 海法師（東京教区 長福寺住職）

会所 高島市勝野 真宗大谷派 天龍山 妙琳寺



靖国問題学習会講演

琉球の真宗弾圧に学ぶ



靖国問題学習会

近江第6組 敬園寺

岸本 恵



靖国問題学習会は5月26日、沖縄別院輪番の長谷暢^{ながたにまさし}さんを講師に開催、参加は30名でした。

沖縄では米兵のおこす事件は後をたたず、若い女性や彼女達の家族には心から安心して暮らせないというのです。なぜかヤマトンチュ（本土の人）の無関心のせいで国民全体の課題とならないのです。本願寺に深く関係する事柄である琉球の真宗禁制の歴史も、私たちの宗門の課題とはなりにくい印象があります。

しかし講義を通して、戦国時代は一向一揆を未然に防ぐ手立てとして島津による琉球の真宗禁制、さらに薩摩によって武力侵略された琉球王朝の歴史という様に、沖縄の事柄は私たちの宗門には、他人事ではないことを講演ではあつく語られました。

講義の後は三班に分かれて座談会をもち、「琉球の時代、こんなに真宗門徒



への弾圧があった事に驚いた」「日本の本土決戦の準備の時間稼ぎで沖縄県民が犠牲になったなんて、知らなかった」

「部落差別、^{せんだら}旃陀羅問題と靖国の問題、こういう関係があるのか分からない」と、様々、貴重な声を聞かせていただきました。

今後も教団の歴史のなかに琉球の真宗弾圧を伝えていく活動を広げていきたいと思っています。

私達靖国問題学習会では会員を募集しております。ご興味のある方、会の活動にご賛同いただける方は、左の二次元コードを読み取っていただくか、会長^{たにぐさあやうじ}（谷口勇二・090-9464-1592）までご連絡いただきますようお願いいたします。登録いただき、共に活動のできる日を楽しみにしております。

男と女の平等って、なに？

「何に加担しているのか」あるいは「何に加担させられているのか」

出版部会 山城第3組 専念寺^{せんねんじ} 仲野 恵理子^{なかの えりこ}



「フジテレビ問題」がニュースに取り上げられていた時、第三者委員会の報告にこんな文言があった。

「男性優位の同質性」

この報告書に関しての「同質性」とは「男性社会」とか「ホモソーシャル」を意味するものであることが、調べてみてわかった。なんとなく思い当たる

光景がいくつも出てきて、私はこういう場所にいるのだなと実感させられた。

「ジェンダー平等を殊更に言う必要はない」「私は差別された経験がない（差別などない）」「社会問題はやりたくない、もっと教学を学びたい」

そう言っている人を何人かみた。私もそう思う。なぜなら中途半端に社会問題を扱うのはただ消費しているだけではないかと思うし、それなら手を出さないほうがいい。しかし、親鸞聖人がせつかく山から下りてき

て下さったのだから、私たち真宗門徒が少しでも社会と接点を持つと努力することはそんなに間違っていないと思う。社会との接点があるからこその悩み、苦しんでいるという点においても。

私がここに書いていることは、読む人によっては不快かもしれない。出版の自由は表現の自由と共に与えられた基本的人権である。と同時に当然、批判的な意見を言うことも同等の権利がある。これを拒否し、一方の考えしか扱わないのであればそれは人格否定と呼べる、立派な人権侵害であるし、言論統制である。

そしてこれは全体主義につながる第一歩と言っているだろう。こういう危険な状況に陥らないために、さまざまな意見をぶつけ合い議論しあえればと思う。

京都教区 11月の教区事業		
5日(水)	13:30～16:30	教区教誨師会 総会
12日(水)	9:30～15:30	教区坊守会 真宗基礎講座 (Zoom 併用)
17日(月)	9:00～12:00	常磐会館 報恩講 おみがき
21日(金)	16:30～18:30	常磐会館 報恩講
京都教区 11月の教区諸会議		
11日(火)	13:30～16:30	教化本部 企画室 会議
20日(木)	13:30～16:30	財政委員会 専門部会 (旧京都教区対象)
20日(木)	13:30～16:30	教化本部 出版部会 編集会議

教務所からのお知らせ

得度受式者

二〇二五年九月九日

- ・山城第二組 願照寺 山口 見雪
- ・山城第二組 大泉寺 松浦 弥優
- ・近江第九組 正覺寺 佐々木 康子

住職任命者

二〇二五年九月二十八日

- ・長浜第十三組 柳岸寺 大野 淳天
- ・長浜第十五組 真行寺 藤田 眞梨
- ・長浜第二十一組 樂入寺 門池 香有
- ・近江第二組 傳久寺 武村 量慈
- ・近江第十組 圓徳寺 藤澤 雅史
- ・近江第十一組 法専寺 朽木 一賢

京都教務所人事異動について

二〇二五年十月一日

- ・矢木 春香 (やぎ はるか)
- 京都教務所主計から財務部主事に任命
- ・史陀 浩輝 (しだ ひろき)
- 財務部主事から京都教務所主計に任命

敬弔について

「敬弔」については、宗派発行の『真宗』誌または、京都教区発行の教務所長各組巡回『事務連絡資料』をご覧ください。

諸願事の提出期限について

得度願、住職・教会主管者任命申請は、執行日や修習日の関係で申請の提出期限がありますので、ご注意ください。

なお、提出期限を超えての申請は、受付をすることができませんので、ご承知おきください(諸願事の提出期限等については教務所までおたずねください)。

また、得度願につきましては、申請前に「得度考査」に合格することが必要となりますのでご承知おきください。

申請書類について

諸願事(得度願、住職・教会主管者任命申請、代務者任命申請等)の申請書で、申請をせずに一年以上申請書を保管されている場合は、書式が変更になっている場合がありますので、お持ちの申請書を破棄ください。

なお、申請書は宗派のホームページからダウンロードいただくか、教務所までお申し出ください。

長浜教務支所の現金取扱日について

長浜教務支所の現金取り扱いは、左記のとおりです。

11月4日(火)	11月17日(月)
12月8日(月)	12月22日(月)
1月19日(月)	
2月9日(月)	2月24日(火)
3月9日(月)	3月23日(月)
4月6日(月)	4月20日(月)
5月11日(月)	5月25日(月)
6月8日(月)	6月22日(月)

二〇二五年 常磐会館 報恩講

期 日

十一月二十一日(金)

日 程

受付…午後四時～
 勤行…午後四時半～
 法話…午後五時半～
 お斎…午後六時半～
 散会…午後七時半

会 場

常磐会館(京都教務所)
 二階 大講堂

講 師

藤場 芳子氏
 (金沢教区 第三上組 常讃寺)

冥加金

お斎含む…二千元
 (お斎・記念品)

聴講のみ…千円(記念品)

※冥加金は、当日受付で納付。

申 込

十一月七日(金)までに下記コードより必要事項をご入力ください。

※聴講のみの方は、事前申込不要です。

問合せ

京都教務所担当…仁



京都教区別院 11月の行事予定

4日(火)	13:30～15:30	山科 同朋の会 法話 磯野 恵嗣 師(教区駐在教導)	山科別院
5日(水)	12:00～13:00	赤野井 定例法話(教如上人御命日速夜) 法話 中川 眞 師(別院輪番)	赤野井別院
5日(水)	14:00～16:00	山科 定例法話 法話 高木 淳善 師(近江第3組 覺成寺)	山科別院
5日(水)	14:00～16:00	伏見 報恩講 酒井 正夫 師(三教区 道浄寺)	伏見別院
6日(木)	14:00～16:00	大津 同朋の会 聞法会 法話 望月 彌名子 師(山陽四国 浄泉寺)	大津別院
10日(月)	14:00～17:00	伏見 伏見別院同朋会 御文輪読	伏見別院
13日(木)	10:00～11:30	岡崎 三日講「歎異抄を読む」 法話 近藤 悠 師(別院輪番)	岡崎別院
27日(木)	19:00～21:00	伏見 親鸞教室 法話 藤原 正寿 師(大谷大学准教授)	伏見別院

依頼「令和六年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

昨年(二〇二四年)一月一日に発生した能登半島地震から一年半余り経過いたしました。これまで、教区内のみならず被災地の支援にご理解をたまわり、救援金をお寄せいただいておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

このたびの地震の影響を受けた北陸の地は、真宗門徒の多い地域であります。とりわけ震源地である能登地方は多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、今もなお深い悲しみと不安の日々を過ごされております。真宗大谷派として、今後も全力を傾注して支援策を講じてまいります。地震発生直後から、真宗大谷派寺院の被害状況や今日までの支援活動の様子などは、真宗大谷派Webサイト内でも随時お知らせ更新しております。また、公式SNS(X)でも発信しています。京都教区としても、息の長い被災地支援を続けてまいりたいと存じます。なにとぞ趣旨をご賢察たまわり、救援金勧募などの被災地の支援に引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

真宗大谷派Webサイト内
令和6年能登半島
地震について

災害情報公式X
(旧ツイッター)



編集後記

「教区だより、何か変わってきたね」
先日、法座で訪れたあるお寺のご住職がおっしゃった。

「新しい読み物も出てきたね。読んで面白くものがあるね。読んでは面白くもなってきた感じがするね」

確かに、「本の紹介コーナー」や「行事のお斎メニュー紹介」など今までになかった企画も登場してきた。こちらが意識を変える時、それを受け止めてくれる人がいる。さて、今月号は？

(出版部会 高田 正城)

京都教区 公式SNSあります



公式SNSで更新情報などを配信しています。1,000カ寺を超える寺院・教会がある京都教区ですが、登録者数はまだまだ少ないです！ぜひご登録をお願いします！



LINE公式アカウント
2025年10月6日現在
登録者数238名
LINE ID @441foywe

Facebook、Instagram
もちろんあります！



教区だより表紙写真大募集!!
本誌表紙写真を大募集いたします！
テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿彌陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。
詳しくは京都教務所まで。お待ちしております！

【表紙の写真】2025年度 児童大会(赤松崇磨/教区駐在教導)

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌 教区だより 第426号

真宗大谷派 京都教区 Webサイト <https://www.k-kyoku.net>

【発行人】宮戸弘(真宗大谷派京都教務所長) 【発行所】真宗大谷派京都教務所 【発行日】2025(令和7)年11月1日
〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入 Tel 075-351-5260 Fax 075-351-5256 Mail kyoto@higashihonganji.or.jp

